

令和4年度 事業報告書

(令和4年4月1日から令和5年3月31日まで)



学校法人 滝学園

令和4年度 学校法人 滝学園 事業報告書

1 法人の概要

本学校法人滝学園は、教育基本法及び学校教育法に従い、建学の精神に基づく学校教育を行い、社会に貢献できる人材を育成することを目的としています。

この目的を達成するための令和4年度における滝学園の事業報告は以下のとおりであります。

(1) 法人名、所在地

(法人名) 学校法人 滝学園

(所在地) 愛知県江南市東野町米野1番地

(2) 創立者 及び 建学の精神

(創立者) 瀧 信四郎

実業家として成功を収めた瀧 信四郎が、「教育の任務は重大であり、その成果は永遠である。長期的視野にたてば、自分を育ててくれた郷土から将来社会に貢献できる青少年を育成することこそ最大の恩返しである。」と考え、「報恩感謝」、「質実剛健」、「勤勉力行」を建学の精神（校訓）とし、大正15年4月に開校しました。

(3) 沿革（抜粋）

大正13年6月 設立計画発表

大正15年4月 瀧実業学校開校

昭和元年12月 本館竣工

昭和4年3月 専修科設置認可

昭和5年2月 農業科・商業科3年制（乙種）併設

昭和8年12月 講堂・旧図書館竣工

昭和11年7月 財団法人設立認可

昭和14年2月 農業科・商業科3年制廃止 農業部3年制（甲種）第2本科新設

昭和19年2月 商業部・農業部第2本科廃止、

” 3月 農業拓殖科設置（昭和21年廃止）

昭和21年4月 商業部再度設置

昭和22年4月 滝中学校（男女共学）併設

昭和23年4月 農業科設置（昭和37年に畜産園芸科に改編、昭和45年廃止）

” 商業科設置（平成12年廃止）

昭和24年4月 普通科新設

昭和25年3月 農業別科設置（昭和28年廃止）

昭和25年4月 家庭科新設（昭和30年4月廃止）

” 5月 滝服装文化学園併設（昭和26年廃止）

昭和26年4月 学校法人設立認可

昭和34年～ 旧中学館竣工 35年—プール竣工 38年—旧2号館竣工

昭和39年4月 滝実業高等学校を滝高等学校に校名変更

昭和41年～ 第1体育館竣工 44年—現特別教室棟東館（旧中学館）竣工

昭和 50 年	50 周年事業として 3 号館及び報恩館竣工（80 周年時に解体）
平成 9 年～	第 2 体育館竣工 10 年—現高校南館・高校北館竣工
平成 13 年 3 月	本館・講堂 国の有形文化財建造物として登録
平成 14 年 4 月	土曜講座始まる
平成 19 年	現中学館竣工
平成 20 年～	カナダ研修 27 年—英国研修 28 年—米国研修 始まる
平成 23 年～	地域枠推薦入試 24 年—帰国生入試 始まる
平成 28 年 9 月	今後の滝学園の目指す教育を滝学園と連携し、補完する機関 「株式会社滝教育研究所」を設立
平成 29 年 6 月	図書館 国の有形文化財建造物として登録（増築部分を含む）
平成 31 年 3 月	「株式会社滝教育研究所」施設拡充・拡大のため移転 滝学園江南駅前キャンパス竣工(名古屋銀行 旧江南支店 古知野町久保見)
令和元年 8 月	学内 LAN 高速化（1G から 10G へ）に伴う ネットワークシステムの再構築事業完成
〃	各教室へ映像配信システム （授業支援、ライブ配信システム）の設置事業完成
令和 2 年 7 月	中学全学年に iPad 貸与開始 （令和 5 年度には全生徒に貸与予定）
令和 3 年 10 月	一宮駅⇄滝学園間スクールバス運行開始
令和 4 年 2 月	滝中学校 名古屋会場受験開始
令和 4 年 4 月	江南駅⇄滝学園間スクールバス運行開始
〃	百周年記念事業新棟新築工事開始
〃	百周年記念事業文化財保存改修工事（講堂・図書館）開始

（４）法人組織

学校法人滝学園は、教育基本法及び学校教育法に従い学校を設置することを目的に創立された法人であり、法人組織については以下のとおりであります。また、現在設置している学校は、滝高等学校及び滝中学校の 2 校であります。

【評議員会】

評議員をもって組織し、学校法人の業務、財産の状況、役員の業務執行の状況について役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告を徴する。

【理事会】

理事をもって組織し、本法人の業務を決し、理事の職務執行を監督する。

（５）法人役員の状況（令和 4 年度予測）

（注）【 】内は寄付行為中の条・項・号の該当数

1. 理事長 滝 富 夫
2. 理事（定員 7 名～11 名 現員 10 名）
 - 理 事【7-1-1】 戸 田 誠
 - 理 事【7-1-2】 滝 富夫 朱宮新治 滝 祥夫 中島政彦 壁谷昭徳
 - 理 事【7-1-3】 加藤千麿 田口俊明 天野源之 小川宏嗣
3. 監事（定員 2 名 現員 2 名）

監 事 加藤智子 伊藤靖祐

4. 評議員（定員 17 名～24 名 現員 21 名）

評議員【26-1-1】戸田 誠

評議員【26-1-2】中島政彦 原 博司 高瀬裕隆 横井大五郎 高橋秀希 壁谷昭徳

評議員【26-1-3】野木森剛 上松泰歳 五藤三佐樹

評議員【26-1-4】滝 富夫 滝 康夫 浅井将雄 古川秀興 古川爲之 熊澤建雄
澤田和延 滝 祥夫 渡邊 敦 野々川房子 大西正一

（6）法人の活動

理事会及び評議員会を開催し、学校法人の事業計画及び運営上の重要事項の審議、決定及び業務執行をする。

（7）令和 4 年度開催予定の理事会、評議員会への付議事項及び決議事項

令和 4 年 6 月 2 日 開催 於：ホテルオークラレストラン 会議室

- ・ 法人役員（評議員）一部変更案承認の件
- ・ 令和 3 年度事業報告案承認の件
- ・ 令和 3 年度収支決算案承認の件
- ・ 法人役員（評議員）選任案承認の件
- ・ 事務長職にあることができる機関承認の件

令和 4 年 9 月 16 日 開催 於：理事会：ホテルオークラレストラン 会議室
於：評議員会：名古屋銀行協会 会議室

- ・ 定年退職者の再雇用に関する規程改定の件
- ・ 滝高等学校の学則カリキュラム変更の件

令和 4 年 11 月 24 日 開催 於：ホテルオークラレストラン 会議室

- ・ 百周年記念事業建築資金借入承認の件
- ・ 滝高等学校の学則カリキュラム変更の件[再上程]

令和 5 年 3 月 3 日 開催 於：ホテルオークラレストラン 会議室

- ・ 令和 4 年度補正予算案承認の件
- ・ 令和 4 年度施設設備引当資産取崩案承認の件
- ・ 令和 4 年度減価償却引当資産取崩案承認の件
- ・ 令和 4 年度第 2 号基本金取崩案承認の件
- ・ 令和 5 年度事業計画案承認の件
- ・ 令和 5 年度予算案承認の件
- ・ 令和 5 年度管理職人事承認の件

2 設置する学校の概要

（1）設置する学校名、課程、科、校長、所在地

（学校名） 滝高等学校 全日制課程 普通科 （男女共学）

(校 長) 滝 中 学 校 (男女共学)
 滝 高 等 学 校 戸 田 誠
 滝 中 学 校 原 博 司
 (所在地) 愛知県江南市東野町米野 1 番地

(2) 設置する学校の収容(入学)定員、学生数、学級数 (令和4年5月1日実績)

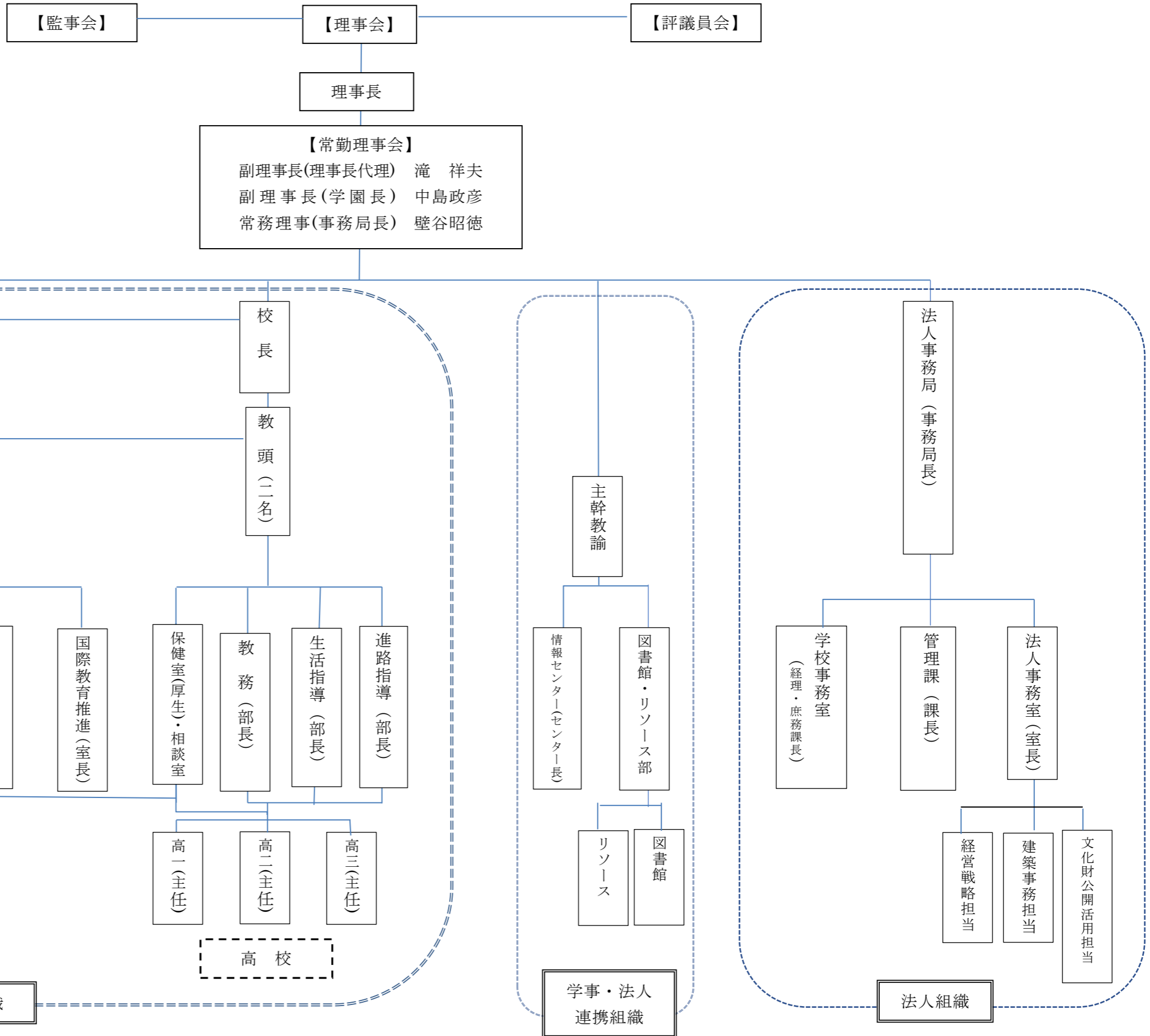
学 校 名	学 年	収容(入学)定員	生徒数	学級数
滝 高 等 学 校	1 年 生	360 名	384 名	9
	2 年 生	360 名	383 名	9
	3 年 生	360 名	353 名	9
	合 計	1080 名	1,120 名	27
滝 中 学 校	1 年 生	280 名	251 名	6
	2 年 生	280 名	252 名	6
	3 年 生	280 名	250 名	6
	合 計	840 名	753 名	18
総 合 計			1,873 名	45

(3) 設置する学校の教職員数 (令和4年5月1日実績)

学 校 名	学 園 長	校 長	教 頭	教 諭 / 養 護	事 務 職 / 司 書	講 師	契 約 職 員	校 医
滝 高 等 学 校	1	1	2	52 2	7 1	12	6	4
滝 中 学 校		1	1	37 2	3 1	4	2	4

令和4年度学園組織

(4) 学園組織、委員会組織



令和4年度 各種委員会構成メンバー

安全委員会

担当教頭 高橋 秀希
 委員長 鷺見 伸介
 委員(養護教諭) 閑 則子
 委員(中学運動) 神田 百恵
 委員(中学文化) 岩塚 友紘
 委員(高校運動) 小川 岳大
 委員(高校文化) 牧野 良祐
 委員(庶務課長) 舟橋 昌富

入試委員会

委員長(高校教頭) 高瀬 裕隆
 副委員長(中学教頭) 高橋 秀希
 副委員長(高校教頭) 横井大五郎
 委員(中学教務部長) 梶田 久雄
 委員(高校教務部長) 近藤 功明
 委員(主幹教諭) 福地 敏温
 委員(事務局長) 壁谷 昭徳
 委員(庶務課長) 舟橋 昌富
 委員(法人事務) 六浦 政人

教科主任

英語:八谷 信
 国語:岩井 里奈
 社会:井戸 康貴
 芸術等の教科代表:野々山敬之
 数学:堀江 亮次
 理科:入船 泰士
 保健体育:原 裕人

職員協議会

議長 秋田 陽哉
 副議長 佐橋 亮太

ネットやケータイの犯罪・被害対策委員会

委員長(中学教頭) 横井大五郎
 副委員長(高校教頭) 高瀬 裕隆
 委員(中学生生活指導部長) 武田 靖子
 委員(高校生活指導部長) 野々垣弘之
 情報センター長 福地 敏温
 ネットワークアドバイザー 佐宗美智代

学校評価委員会

委員長(情報センター長) 福地 敏温
 委員(中学校長) 原 博司
 委員(高校校長) 戸田 誠
 委員(中学教頭) 横井大五郎
 委員(高校教頭) 高瀬 裕隆
 委員(高校教頭) 高橋 秀希
 委員(事務局長) 壁谷 昭徳

ハラスメント対策委員会

委員長(高校校長) 戸田 誠
 委員(中学校長) 原 博司
 委員(中学教頭) 横井大五郎
 委員(高校教頭) 高瀬 裕隆
 委員(高校教頭) 高橋 秀希
 委員(経理課長) 中村 直子
 委員(中学生生活指導部長) 武田 靖子
 委員(高校生活指導部長) 野々垣弘之
 委員 酒向 智子
 委員 安藤真由美

ハラスメント窓口担当者

原 裕人 安藤 早苗
 普光 真生 小澤 真紀
 小山 香織

衛生委員会

委員長(高校校長) 戸田 誠
 副委員長(中学校長) 原 博司
 委員(事務局長) 壁谷 昭徳
 委員(養護教諭) 加藤 晃子
 委員(教職員代表) (組合委員長)
 委員(産業医) 野木森 剛

百周年記念事業会議

滝 祥夫 原 博司
 中島 政彦 戸田 誠
 壁谷 昭徳

百周年記念事業委員会

企画委員 中高企画運営会議のメンバー、主幹教諭
 舟橋 昌富(庶務課長)
 教科委員 秋田 陽哉(国語) 貝沼 隆志(技術)
 近藤 帝嘉(数学) 羽生 裕司(保体)
 中島 雅斗(英語) 六浦 政人(事務)
 上野 晃平(社会) 星野 佳代(図書)
 深山 裕史(理科) 安藤 裕司(国語・図書)

ICT支援係

酒向 智子(中1) 八谷 信(高1)
 堀江 亮次(中2) 高橋由紀子(高2)
 佐橋 亮太(中3) 荒 純平(高3)

滝学担当委員

委員長(中学教務部長) 梶田 久雄
 副委員長(国際教育推進室長) 山脇 治男
 委員(中1学年主任) 八島 敏彦
 委員(中2学年主任) 坂野 貴宏
 委員(中3学年主任) 野村 克也
 委員(高1学年主任) 渡邊 晃男

3 事業の概要

(1) 教育活動（主な活動抜粋）

(A) 教務部（各種行事計画・実施 図書・視聴覚活動）

基本的教育活動の一環として、授業実施計画及び学校全体の教育に係る行事を計画し、実施する。

- 4月 入学式 始業式 宿題テスト 新入生オリエンテーション
遠足（中学・高三）
生徒面談
- 5月 教育実習生受入 定期考査 中3修学旅行(長崎3泊4日)
- 6月 学級別懇談会 研究授業
- 7月 定期考査 高1・2GTEC 終業式
前期特別復習授業 中学体験型学習(中1英語プログラム 中2自然体験学習 中3エンパワーメントプログラム)
- 8月 後期特別復習授業
- 9月 始業式 宿題テスト 生徒面談
- 10月 定期考査 遠足（高一 高二）
- 11月 学級懇談会
- 12月 定期考査 生徒面談 高1GTEC 終業式 特別授業(復習授業、受験対策)
高2修学旅行(沖縄3泊4日)
- 1月 始業式 中学スタートアップテスト・高1・2実力テスト
中学・高1・2球技大会
- 2月 中学カルタ大会
- 3月 定期考査 卒業式 終業式

(B) 進路学習指導部

【高校進路に関する指導】

日常の学習及び受験に向けての情報並びに幅広い社会的情報を提供するため、各種説明会、講演会、教養講座及び学習講座等を計画し、実施する。

- 4月 大学入試結果報告会
- 5月 高2理系講演会(理工系)
- 6月 高2文系講演会 高2理系講演会(医療系) 高1文理説明会
- 7月 高3進学説明会
- 8月 大学進学懇談会
- 9月 大学入学共通テスト出願説明会
- 10月 中3進学説明会 高1進路講演会（理系） 高2進学説明会
- 11月 高1進路講演会（文系）
- 1月 中2進学説明会 高2進学説明会 高3出願大学検討会

【中学学習に関する指導】

基礎学力定着における取組を立案・計画し、実施する。

具体的な取組事項は現在立案中。

【土曜講座の企画並びに運営】

平成14年度からの「学校5日制」実施に伴い、本校では年間7～8回特定の土曜日に「土曜講座」という新しい教育フィールドを設け、年間約700講座を開講しています。

そこには2本の柱、①教養講座と②学習講座を立て、生徒の自由参加の元教員自ら、又は講師を招き、日常の授業では得られない教育効果を求め継続的に実施している

(記念講演会)

1年間の「土曜講座」の集大成として、又、新入生記念行事として毎年4月に「記念講演会」を実施しています。

在校生や多くの卒業生・保護者の方に、各界の識者の講演を聴講しています。

- 第1回記念講演(平成15年4月19日)
 - ノーベル物理学賞受賞者 ジェローム・フリードマン教授
- 第2回記念講演(平成16年4月17日)
 - 哲学者 梅原 猛 氏
- 第3回記念講演(平成17年4月16日)
 - ノーベル化学賞受賞者中央研究院院長 李 遠哲 氏
- 第4回記念講演(平成18年4月15日)
 - アファンの森財団理事長・作家 C.W.ニコル 氏
- 第5回記念講演(平成19年4月21日)
 - 諏訪中央病院名誉院長 鎌田 實 氏
- 第6回記念講演(平成20年4月12日)
 - 翻訳家 池田 香代子 氏
- 第7回記念講演(平成21年4月11日)
 - 数学者 秋山 仁 氏
- 第8回記念講演(平成22年4月8日)
 - 全国骨髓バンク推進連絡協議会会長 大谷 貴子 氏
- 第9回記念講演(平成23年4月16日)
 - 第29次、第35次南極地域観測隊観測隊長 渡辺 興亜 氏
- 第10回記念講演(平成24年4月14日)
 - 明治大学文学部教授 齋藤 孝 氏
- 第11回記念講演(平成25年4月13日)
 - 生物学者・理学博士 池田 清彦 氏
- 第12回記念講演(平成26年4月12日)
 - 経済アナリスト 森永 卓郎 氏
- 第13回記念講演(平成27年4月11日)

- ノーベル物理学賞受賞者 小柴 昌俊 氏
- 第14回記念講演(平成28年4月9日)
 - 東京大学名誉教授 養老 孟司 氏
- 第15回記念講演(平成29年4月15日)
 - 日中友好協会会長グローバルビジネス学会会長 丹羽 宇一郎 氏
- 第16回記念講演(平成30年4月14日)
 - 名古屋大学教授ノーベル物理学賞受賞者 天野 浩 氏
- 第17回記念講演(平成31年4月20日)
 - 株式会社リアルディア代表取締役社長(元アップル副社長)
(滝高等学校 第26回 卒業生) 前刀 禎明 氏
(さきとうよしあき)
- 第18回記念講演(令和2年4月18日)
 - 脳科学者 茂木 健一郎 氏
 - ⇒コロナ感染拡大防止のため、中止。
- 第19回記念講演(令和3年4月10日)
 - 名古屋大学特任助教(滝高等学校 第47回 卒業生) 森島 邦博 氏
- 第20回記念講演(令和4年4月9日)
 - 慶応義塾大学大学院教授 岸 博幸 氏

(C) 生活指導部(生活・保健衛生・安全に関する指導、生徒会活動)

生徒の日常的な生活、安全、衛生・健康に対する指導を目的とし、各種関係団体・部署との連携を保ち、行事等を計画し、実施する。

4月 教職員健康診断 生徒会役員選挙 クラブ見学・登録、安全教育

5月 避難訓練 校外(通学路)清掃活動 新入生内科・歯科検診

6月 通学路交通安全指導 避難訓練

7月 自然体験学習事前検診

9月 中学)文化発表会 体育大会 高校)文化祭 体育祭

10月 校外(通学路)清掃活動 生徒会役員選挙 通学路交通安全指導

11月 避難訓練

2月 在校生内科・歯科検診

(D) 入試広報室(募集活動 情報発信や連絡網の強化、入試業務のIT化)

中・高の入試に係る募集活動(学校案内作成、各種説明会やオープンキャンパスの実施)、学外の広報活動(マスコミ、企業)、HPの管理運営、学園の校報紙の発行等並びに入試業務のIT化を行う。

(E) 科、学年、その他

各部署の計画以外に、各学年及び各科が学校教育に必要と考える独自の計画をたて、実施する。

4月 憲法講演会(社会科)

7月 音楽的行事(中1)

10月 美術的行事(中1)

(F) 国際教育推進室 (国際交流・海外研修、職員海外研修、海外提携の研究)

【国際交流・海外研修】

国際的視野を広め、英語学習や職業選択等に対する意識を向上させることを目的とする。

① カナダ研修 (派遣人員：20名 派遣期間：8日間 (3/23～3/30) 実施)

中学3年生希望者から選考し、春期休業中にカナダ派遣した。期間中は研修プログラムに従い、現地の生徒たちとの交流を図る。滞在はホームステイとし、現地での生活を実体験させることにより、異文化を理解させ、語学力の向上及び国際的視野を広げる一助とする。

② アメリカ研修 (派遣人員：20～40名程度 派遣期間：10日間程度)

高校1年生希望者をアメリカに派遣し、世界のトップ大学とそこに集う教師陣、学生など、一流を身近に感じさせる。将来のキャリア像をグローバルな視点でとらえ、自分自身の夢の実現に向け、モチベーションとすることを期待する。

⇒コロナの影響により Web を利用して校内で実施。(ニュージーランド大学生と交流)

③ イギリス研修(同窓会援助事業) (派遣人員：5名程度 派遣期間：10日間程度)

高校2年生希望者から選抜し、イギリス(主にロンドン)に派遣する。日本各地並びに現地からの同世代の生徒との交流・意見交換、世界で活躍する日本人との対話、UCL(University College London)の教授陣による講義等を経験する機会を与える。広い視野を持つ人物から、その考え、経験を学び、それぞれの生徒が自身のステージをあげることを期待する。

⇒コロナの影響により Web を利用して校内で実施。

④ 国立竹東高級中学(台湾)等の文化交流訪問(訪問人員：生徒約30名 教員数名)

時期：12月中旬

平成30年度から始まった高2の修学旅行で訪問した台湾の国立竹東高級中学が、本校に訪問し、授業見学、クラブ活動見学等、本校生徒との文化交流をする。

国外の学校との文化交流をし、視野を広くすることを目的とする。

⇒修学旅行 行先沖縄へ変更のため中止

【職員海外研修、海外提携の研究】

世界規模で活躍する人材をより多く輩出するため、職員の意識と指導のグローバル化の推進を目指す。海外の教育事情を研究し、在校生及び卒業生の留学のあり方を考える機会とする。海外の大学・高校等の状況を研究し、交流や連携のあり方も考え、立案できるようにする。

① カナダ教育事情視察 (派遣人員：1名程度 派遣期間：8日間 (3/23～3/30))

⇒実施

時期：3月 訪問地：カナダ(主にビクトリア)

生徒のカナダ研修の往復では、付き添い教員をサポートし、生徒の研修期間中には、

現地の学校現場を視察しながら、本校のグローバル化のあり方を考える。

②海外教育事情視察（派遣人員：各1名程度 派遣期間：10日間程度）

時期：8月 訪問地：イギリス（主にロンドン）

イギリスへの生徒の派遣に同行しながら、先進的な教育環境や教育内容を研究する。将来の国際交流の可能性や、本校のグローバル化のあり方について考えるきっかけとする。

⇒中止

（G）情報センター 図書館・リソース部

【情報センター】

・令和3年度から年次進行している生徒への端末貸与が高3生を除いた中・高5学年の生徒へ貸与。令和5年度には全生徒への一人一台の端末貸与。

・生徒情報の一元管理を目的とした生徒カルテ導入を見据えた校務支援システムへの入替を導入。（既存の校務支援システムのサポート期間終了に伴い新システム「BLEND」への移行が完了。）

新システム導入により成績管理に加え、出欠管理・保護者連絡機能の利用が開始。

・令和3年度までに導入済IT機器（大型提示装置、動画撮影機器等）の利活用情報センターがサポートする形により各学年で動画配信・撮影を行い、全校行事以外の学年企画等での活用が進んだ。

【図書館・リソース部】

図書館・リソース部では、令和4年9月より「電子図書館」を開始した。1月30日段階で、多い書籍では20回ほど貸し出されている。まだまだコンテンツの拡充が必要ではあるが、「いつでも・どこでも」をテーマとした図書館整備は着実に進んできている。また、ジャパンナレッジの利用も各学年で増えてきており、朝読での利用も許可された。中1では調べ学習の際、「日本古典文学全集」に2週間ほどで計2万アクセスを突破した。デジタルだからこそ出来る学習環境の提供に寄与していると考えられる。

・令和3年度より導入したWeb OPACの本格活用により、生徒用貸与端末(iPad)から図書館の蔵書検索が可能となった。

・生徒用貸与端末(iPad)から新聞3社(中日・読売・朝日)のデータベースへ学内ネットワークを経由してアクセス可能となった。

・令和4年4月より特別教室棟東1階仮図書館へ移動

・研修センター内に閉架図書館設置

（H）90周年行事で策定された「滝2026への羅針盤」の推進。

「羅針盤」の新しい教育活動の充実

① 基礎的な知識・技能のより確実な習得

・滝教育研究所について

令和4年度においては、生徒の受講ニーズをより満たすべく、設置講座数を質的、量的に確保することで、受講者数の増加とともに生徒の学力向上に資する学習環

境の確立に努めた。又、コロナ禍における中・高受験生の保護者待機場所としても活用。

コロナ禍による学年閉鎖や学級閉鎖など運営面で若干の影響(講座の休講など)はあったが、長期にわたる休館等の障害は生じることがなく、比較的安定した研究所運営を遂行することができた。設置講座数を増やすことができたことで(22講座→25講座)、受講人数(実人数)は全学年トータルで前年比 117%の申込状況(開講時)であった。特に、中 3(前年比 119%)、高 1(前年比 140%)の申込が好調であった。講座あたりの平均受講者人数も令和 2 年:18.4 人、令和 3 年:19.3 人、令和 4 年:20.1 人と増加、受講生の継続率も向上した。(令和 2 年→令和 3 年: 43%、令和 3 年→令和 4 年: 52%)休館等の悪影響を回避できたことで、自習室の利用者が大きく増加した。現状、1 月末時点の利用者数(見込)は 8,400 名で前年の 7,053 名を大きく上回っており、開所以来、最多の利用者数となる。「学外学習の場」として「滝研」が、着実に根づいてきている。

②知識・技能を活用し課題を解決するために必要な、思考力・判断力・表現力の獲得

- ・新土曜講座の充実(教養講座の重視)
- ・江南市民への開放講座

③主体的に協働しながら学習に取り組む態度の育成

- ・各種コンテストへの参加

④「滝学」の導入

時代を見据え、令和 4 年度より、新中 1 生から新高 1 生に対し、通年型グローバル探求プログラム「滝学」を従来の時間枠内に組みこみ実施した。これは科学、技術、工学、数学の横断的教育に加え、生徒自らが考え、意見をつくり、発信していくことに重点を置いた。創立者滝信四郎先生の思いや、理事長滝富夫先生の考えや姿勢について具体的に学ぶことを手始めとし、学年に応じてテーマを決め未来を生きる糧を与えることを目標とする。各学年、年間 10 回ずつ取り組むものとして導入した。

(2) 教育施設・設備の充実及び安全確保

教育施設設備及び教育諸環境を整備・充実させることにより、教育効果を高め、また学校生活における安全を確保することを目的とする。

(A) 定期的な点検

校舎、クラブハウス等教育施設の安全点検

体育設備(防球ネット、ゴール等)の安全点検

緊急時設備(消防設備、プール水、緊急放送、避難経路等)の点検

校舎内施設(階段、床、扉、窓枠等)の安全点検

校舎外施設(門扉、フェンス、駐輪場、側溝等)の安全点検

緊急時の食料・宿泊用備品及び設備の確保・整備

(B) 長期維持管理の修繕、メンテナンス

建築後 10 年以上の施設の施設維持保繕は、計画を立て、例年通り実施を行った。

(令和 4 年度実績…プールろ過機修繕 プール目隠シート張替え 第 1 アリーナ縦排水管補修工事 屋外男子トイレ便器・自動センサー修繕 第 2 アリーナエントランススタイル修繕 スクールバス駐車場汚水柵フタ設置)

(C) 教育機器備品の充実

学年進行による新中 1 から高 2 までのタブレットの貸与。

(D) 滝学園⇄一宮間・滝学園⇄江南駅間スクールバス導入

生徒の安全・利便性を考え、令和 3 年 10 月より、滝学園⇄一宮間のスクールバスを導入。それに続いて、令和 4 年 4 月より滝学園⇄江南駅間の運行を開始。

(E) 文化財建造物を活用した地域活性化事業

平成 29 年度から開始した文化財事業は、保存活用計画策定と耐震診断・補強案策定、基本設計を経て、令和 3 年度末に実施設計を完了した。これを受けて、令和 4 年度は講堂・図書館の改修工事に取り掛かった。講堂・図書館の屋根を支える鉄骨の補強や外壁の補修、公開活用の拠点である文化財ビクターセンターに改修される旧図書館閲覧室や書庫の工事を進めた。また、図書館と本館との間には新しくキャンパスコリドーを設置した。

(3) 百周年記念事業

(A) 文化財改修工事 (講堂・図書館)

本館・図書館・講堂はいずれも登録有形文化財として登録されているが、老朽化が進み、耐震性も不安であるため、修理する必要がある。又、文化財建造物を活用した、生徒に対する教育、文化活動を通じて、江南市民のみならず、全国、さらには海外の人々にその価値を広く伝えていくことを目指すため、整備事業として行う。

(B) 百周年記念新棟建設工事

学校教育方針に基づいた図書館エリアの拡張計画のもと、先だっで行われている本館、講堂、図書館の改修計画に加え、ICT 教育・国際教育機能を待たせた新棟を新たに整備する。

鉄筋コンクリート造。地上 2 階建。延べ面積 1,435 m²。

1 階…高校職員室(現「高一・高二職員室が手狭」「高三職員室だけが別室」の解消)、高校校長室、面談室等を配置

2 階…ICT ホール、ICT スタッフルーム、スタジオ、進路指導室等設置

(C) 滝文庫整備事業

滝文庫は滝信四郎の蔵書を中心に、新たに購入した図書を加え 9,300 冊を有している。図書館の改修を機会に整理(データ入力、保管)・燻製・クリーニングし、保管、又は一部を展示する。

(D) スクールアイデンティティ

次の 100 年も滝学園の「らしさ」「強み」をもって成長するための羅針盤の再確認をするスクールアイデンティティを作成します。

(E) 百周年専用 WEB サイト立ち上げ

(F) 寄付金活動

通常寄附 クラウドファンディング 遺言信託

(4) 生徒募集活動

創立者の学校法人設立の理念に基づき、社会に貢献できる人材を多く育成するため、また、学校法人の永続的な安定した運営を図るため、ひろく生徒を募集することを目的とする。

(A) 学校説明会及び入試説明会

5月 オープンキャンパス・授業体験

5月 学校説明会（名古屋）

8月 学校説明会（本校）、学校見学会（本校）、学校説明会（岐阜）

10月 入試説明会（小学生・中学生対象）

(B) 私学協会、中学部会関係（合同相談会等）

6月 多治見相談会

7月 私立中学進学フェア（名古屋）

10月 私立学校展

(C) その他 関係諸団体での説明会

（高）10回程度 （中）20回程度

(D) 学校施設提供

塾開催の模擬試験会場の提供（日能研、名進研、野田塾等）

(E) 令和4年度入学試験

高等学校（令和4年2月）中学校（令和4年2月）

[志願者数] 高等学校 1,009名（昨年：1,030名）

中学校 1,868名（昨年：1,797名）

計 2,877名（昨年：2,827名）

(5) P T A 活動（学校側参加分）

本学園の生徒の保護者と教職員が緊密に連携し、生徒に対する教育を真摯に考える機会を設け、「滝学園父母と教師の会」が企画・立案した活動に積極的に参加・協力することを目的とする。

4月 総会

5月 役員会 学校説明会（名古屋）

6月 地区懇談会（全地区） 通学路安全指導（中学）

8月 大学進学懇談会 学校説明会（4支部）

9月 支部長会議

10月 通学路安全指導（高校）

12月 保健安全講演会

3月 役員会

(6) 同窓会活動（学校側参加分）

広く社会で活躍中の本学園の卒業生の組織活動に積極的に参加・働きかけをし、本学園の現状報告をするなどお互いに情報交換をし、また、本学園の理想的将来像等について意見を聴取するなど、お互いに理解を深めることを目的とする。

5月 役員会 岐阜支部会

6月 関西支部会

7月 東京支部会 中部支部会

9月 総会

12月 役員会

その他 地域：一宮滝友会（地区同窓会の準備組織）

職域：豊田自動織機、法曹会

以 上



上記の通り、令和4年度の学校法人滝学園の運営に係る理事会・評議員会は十分にその機能を果たし、年度内に付議された議案に対する決議事項に係る理事の業務については、滞りなく執行されたと認めます。教育活動においては、滝高等学校・滝中学校の基本的教育目標を達成するためコロナ禍の中、中止・変更等は強いられ、未消化の計画もありましたが、それぞれに成果が認められます。

以上令和4年度に計画・実施した学校運営事業の執行状況、教育活動の実績、施設設備充実計画の実績及び計算書類（抜粋）を記し、事業報告とします。

令和5年6月13日
学校法人 滝 学 園
理事長 滝 富 夫